

平成 25 年 8 月 6 日 00130 号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

北見武道通信

ニュースレター【事務局情報】 武道館の進捗状況

8月2日(金)に武道館の建設と運営管理に関し、建設現場立会による協議が行われました。指定管理開始に向けた準備の参考となる現場視察にもなりました。建設現場では、ほぼ外観と内装が出来上がりつつあり、道場1、2は床下構成材(武道場用床下衝撃吸収材)が組み、その上に剣道床材や柔道畳等が敷き詰められる段階まで進められており、天井も高く広々とした空間が大変印象的でした。8月29日には柔道畳が搬入されるとのことです。



正面玄関



剣道・少林寺道場



多目的道場1F



柔道・合気道場



武道の広場(南向)



弓道場



2F 居合・空手道場

連載 中国「老子」の思想 十四章 「道」のはたらき

「道」は、見ても見えないから、「色がない」といおう。聞いても聞かえないから、「音がない」といおう。探っても触れないから、「形がない」といおう。

こうした感覚ではつきとめられぬもの、個別化を経ぬ一般性、それが「道」だ。

上と下との区分もなく、無限にひろがっているもの、そのはたらきは絶えることなく続いているが、そのものが何であるかは明瞭でない。つまり「無」というよりほかに表現のしようがない。状態の判らぬ状態であり、姿の知れぬ姿である。または「おぼろ」とでもいおう。先と後との区別もなく、時を越えて万物を統括する。

「道」の法則性は古今を一貫している。この法則を見きわめることによって、根元としての「道」が認識できるのである。

原文視之不見 名曰夷 聽之不聞 名曰希 搏之不得 名曰微 此三者不可致詰 故歸而為一。其上不徹 其下不昧 繩繩不可名 復歸於無物 是謂無狀之狀 無物之象 是謂惚恍 迎之不見首 隨之不見後 執古之道 以御今之有 以知古始 是謂道紀 十五章(続) 道紀 老子の哲学を直観の所産と見る説がある。だがその直観は、恣意的な空想の領域にとどまるものではなかった。「道」は、あるいは直観によって得られた認識であるかも知れない。しかしその直観の当否を、かれは緻密な自然観察によって検証するのである。